

はじめに

— 震災を乗り越える社会情報学

Social Information Study would overcome the earthquake disaster

— coordinator's opening address —

高田 洋

東日本大震災とそれにとまなう原子力発電所の事故は日本社会の根源的な問題をあらわにしました。防災や復興においての地方自治や政府のあり方はもとより、メディアにおける情報伝達または情報統制の現実、政・官・財・報・学の利権構造、主権在民のあり方や社会運動の困難性、科学技術の信頼性の揺らぎと「学」の権威のあり様など、様々な問題が問い直されています。

このような現象を「社会情報」という側面から見れば、インターネットの場において、この根源的な問題に対する模索が行なわれていることが特徴です。今こそ、「社会情報学」がこのような課題にどう答えるかが問われているといえるでしょう。

本シンポジウムでは、メディアリテラシー、ソーシャル・コンピューティング、リスク・コミュニケーションの専門家、インターネット・メディアのジャーナリストの4名のシンポジストを迎え、社会情報学的な課題を様々な角度から議論しました。

この震災であらわになった問題を乗り越えるために、社会情報学は何ができるでしょうか。「社会情報学」という学部分野を日本で初めての学部名とした「札幌学院大学社会情報学部」の20周年にふさわしいこととして、この重く大きな課題——『震災を乗り越える社会情報学』——を考えていきたいと思います。

当日の様子は、Ustream で生中継されました。講演者のお一人である岩上安身さんが主催する Independent Web Journal (IWJ) の全国エリアチャンネルの一つである IWJ HOKKAIDO からと、社会情報学部の学生有志によるものの、二つのチャンネルから同時中継されました。現在もアーカイブされていますので、全貌を確認できます。以下のページから是非ご覧ください。

IWJ HOKKAIDO

① <http://www.ustream.tv/recorded/18892625>

② <http://www.ustream.tv/recorded/18892667>

③ <http://www.ustream.tv/recorded/18896446>

本シンポジウムの講演部分についてはすでに札幌学院大学総合研究所 BOOKLET No.4 (2012) として発刊されています。本紀要の特集は、それに後半に行われた討論部分を加えた形で構成されています。